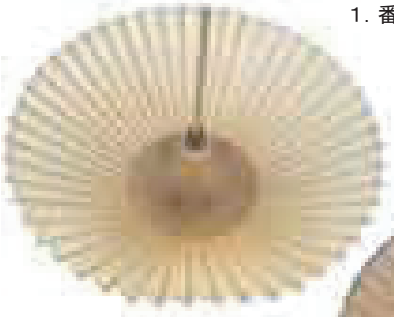
岐阜和傘

岐阜市加納地区を中心に、江戸時代から栄えていました。現在では全国生産の９割以上を占めています。

１．番傘（体験用）…商家や一般家庭の日常用で、柄や傘骨が太く、丈夫にできています。

２．蛇の目傘（体験用）…番傘と比べ全体的にスリムで、傘の内側にある小骨には飾り糸がつき、柄の持ち手には藤を巻くなど、実用性とともに装飾性を併せ持った傘です。主に女性用として好まれました。


１．番傘（体験用）

２．蛇の目傘（体験用）

岐阜提灯

江戸時代後期に登場し、明治時代以降は海外にまでその名を知られました。全国には様々な形態の提灯がありますが、「岐阜」という地名を冠したものはこれだけです。

３．岐阜提灯　御所形…吊り下げ型の岐阜提灯。写真の提灯は国の伝統工芸品指定品で、骨に竹ヒゴを使い、絵は天具帖（てんぐじょう）と呼ぶ薄い和紙に摺り込みで入れています。

４．岐阜提灯　大内行灯…フロアタイプの提灯で、明治時代に考案されました。火袋は絹張りになっています。

３．岐阜提灯　御所形

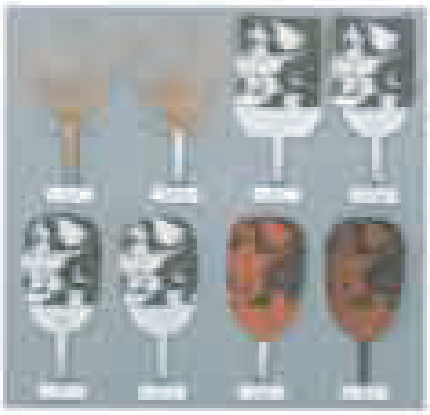
４．岐阜提灯　大内行灯

岐阜団扇

江戸時代末にはその名を知られていました。扇部全体に漆などの塗料を塗る、「塗り団扇」が最大の特徴です。

５．漆塗り団扇　製造工程見本…小判型鵜飼図の製造工程をパネルにしたものです。

６．水団扇…雁皮紙という薄い美濃紙をはり、ニスを塗って仕上げた団扇。水に浸けてあおぎ、涼しさを楽しんだことが、その名の由来と言われています。


５．漆塗り団扇　製造工程見本

６．水団扇

油団

７．油団（ゆたん）…和紙を幾重にも重ねてはり合わせ、模様を型押しして漆を塗った敷物。夏に使用すると、ひんやりとして気持ちが良いものでした。

７．油団（ゆたん）